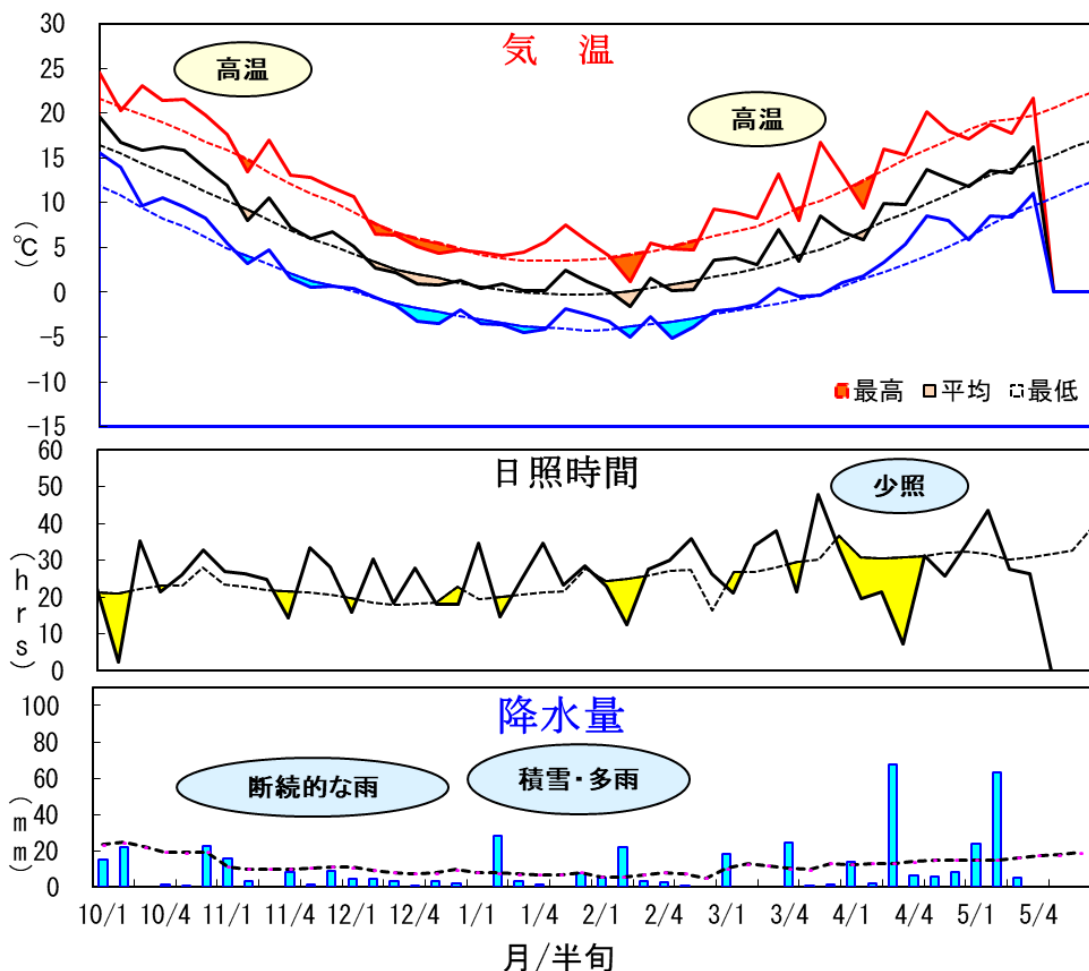


麦作情報第5号

令和7年 5月21日：JA全農みやぎ

大麦の出穂期はやや早く 小麦は平年並み！収穫準備を進めよう！

1 これまでの気象経過（古川アメダス）



2 東北地方の1か月予報【5月17日～6月16日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・天気は数日の周期で変わる。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は、高い確率 60%，平年並みの確率 30%，低い確率 10%。
- ・降水量は、多い確率 40%，平年並み若しくは少ない確率 30%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率 30%，少ない確率 40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 05/17～06/16	10 30 60
		1週目 05/17～05/23	10 10 80
		2週目 05/24～05/30	20 40 40
		3～4週目 05/31～06/13	20 40 40
降水量	東北地方	向こう1か月 05/17～06/16	30 30 40
日照時間	東北地方	向こう1か月 05/17～06/16	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 生育状況

(1) 古川農業試験場内 作況試験 出穂・開花状況（5月16日現在）

- ・大麦では、出穂期は平年より2～4日、開花期は平年より2日程度早かった（平年よりやや早い）。
- ・小麦では、出穂期は平年より1日早く、開花期は平年より1日遅かった（概ね平年並み）。

	品種・区分	出穂期			開花期		
		本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ 中旬	4/21	4/15	4/23	4/28	4/22	4/30
	同 下旬	4/25	4/20	4/28	5/3	4/22	5/4
	ミノリムギ中旬	4/24	4/19	4/28	5/2	4/25	5/4
	同 下旬	4/27	4/21	5/2	5/6	4/26	5/6
小麦	シラネコムギ中旬	5/2	4/26	5/3	5/14	5/5	5/13
	同 下旬	5/6	4/28	5/7	5/16	5/6	5/16
	夏黄金 中旬	5/2	4/26	5/3	5/14	5/5	5/13
	同 下旬	5/5	4/28	5/6	5/15	5/6	5/15

注1) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 出穂期: 全茎の40～50%が出穂した日(1茎については穂先が葉鞘から現れた時)。

注3) 開花期: 全穂数の40～50%が開花した日(1穂については数花開花を認めた時)。

注4) 中旬播種区は10月18日播種、下旬播種区は10月31日播種。

(2) 指定種子生産ほ巡回による出穂期の確認（5月16日現在、大麦のみ）

- ・大河原町；ホワイトファイバー 4月27日出穂期（11月12日播種）
- ・石巻市；シュンライ 4月25日出穂期（10月22日播種）
- ・石巻市；ミノリムギ 4月29日出穂期（10月18日播種）
- ・石巻市；ホワイトファイバー 4月25日出穂期（10月20日播種）

4 今後の技術対策

(1) 収穫期の判定と作業計画

- ・出穂期から成熟期に達するまでの登熟日数の目安は、大麦で出穂後約40日～45日、小麦では約45日～50日である。
- ・古川農業試験場の作況試験によれば、大麦は4月第5半旬に出穂しており、出穂後日数から推測すると、6月第1半旬から第2半旬には成熟期に達すると見込まれる。
- ・小麦は5月第1半旬に出穂しており、出穂後日数から推測すると、6月第5半旬から第6半旬頃には成熟期に達すると見込まれる。
- ・成熟期の判断基準は、「茎葉及び穂首部が黄化し、粒はほぼロウぐらいの硬さに達した日」とされており、この時期の穀粒水分はかなり幅があるが、概ね32～45%である。
- ・収穫適期は、成熟期から約3～4日後で、穀粒水分30%以下が望ましいとされているが、降雨が見込まれる場合には、作業を早める必要がある。

◎パン・中華めん用の小麦「夏黄金」の機械収穫適期(穂の含水率 30%以下)は、穂の全体が赤褐色に色づき、出穂後の積算気温(=日平均気温の合計値)が 900℃程度に達した頃である、という報告がある【下図参照 出典元:令和6年度研究成果 福島県農業総合センター】。

→宮城県古川農業試験場作況試験ほにおける出穂期を5月2日とし、古川アメダスの平年値を用いて計算すると、**積算気温が 900℃程度に達するのは6月 25 日頃と見込まれる。**

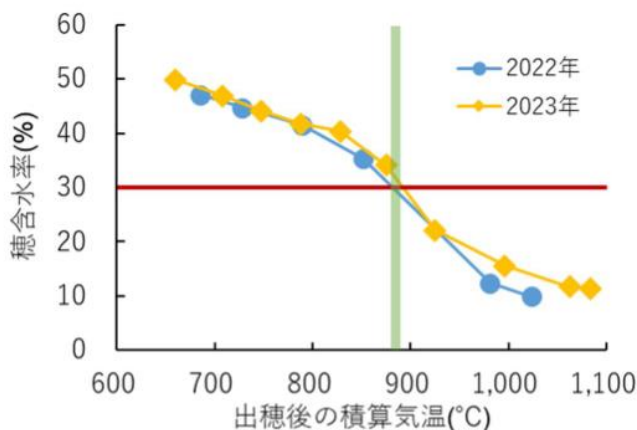


図1 出穂後の積算気温と穂含水率の関係

※穂含水率については、平均的な生育をしている穂を3日程度おきに穂首節で切り取り、80℃で48時間以上通風乾燥させてから算出した。
※播種年次を示す。



図2 収穫適期の穂(左)と子実(右)

※出穂後の積算気温 925℃。

・成熟期以降の麦は、晴天下では急激に乾燥が進む。特に、小麦は降雨後に子実水分が上昇しても乾きが早く、一日に5%も低下することがある。しかし、大麦は外皮があるため降雨に当たると水分の戻りが大きく、小麦より降雨による水分の変化に対する影響が大きい(下図参照)。

→そのため、**大麦は、降雨にあたるごとに品質低下が起きやすい。また、向こう1か月の降水量は多い確率が高いので、成熟期に達したら、なるべく早く収穫することが望ましい。**

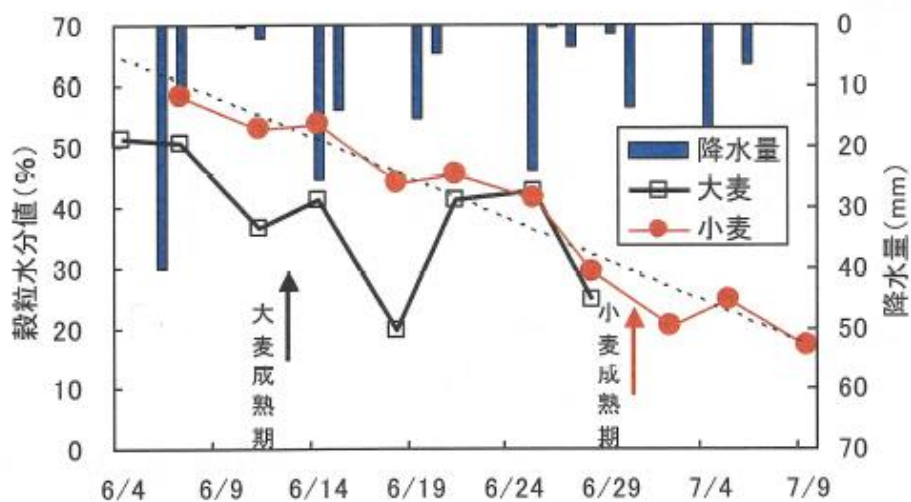


図7-2 麦の成熟と穀粒水分経過 (2001年古川農試)

※水分: 105℃乾熱 大麦: シュンライ, 小麦: シラネ峠 採取時間: 降雨時・直後を除く午前10時頃

(2) 収穫作業

- ・自脱型コンバインによる収穫では、水分が高いほど扱胴の回転数を下げなければならない。子実水分が 30%以上の場合は、扱胴回転数を下げるためにエンジンの回転数を下げたり、稲用に変速したりする必要がある。
- ・普通型コンバインによる収穫では、刈り取った麦体全量を扱室に投入する。自脱型コンバインより短稈の麦や倒伏した麦への適応性は高いものの、土砂の混入等に注意が必要である。

◆フレコンでは詰込みが終了したら、直ちに入り口を縛り、ネズミや害虫の侵入を予防する（気温が高めだと、害虫の動きもより活発になるため、フレコン内に侵入しやすくなる）。

●本年は出穂後の降雨が多く、ほ場周辺で薬剤散布が十分でなかった場所では、下記のように赤かび病の罹病穂が確認されることもある（画像提供：宮城県古川農業試験場）。罹病穂を確認したほ場では、他のほ場と刈取・乾燥・調製を分けるなど、対策を講じる。



【ほ場で採取した罹病穂？】



【培養後 赤かび病を確認】

(3) 乾燥調製

- ・水分 30%以上の高水分麦を乾燥機に投入する際は、張り込み量を 60～70%にする。
- ・大麦、小麦ともに、子実水分が 30%以下になるまでは 40～45℃と低めの送風温度とし、乾燥が進んで水分が 30%以下になったら、通常の送風温度（50～60℃）に調節する。
- ・乾燥後は唐箕でごみなどを取り除き、米選機で選別する。網目は大麦・小麦とも 2.4mm 以上とし、子実水分は検査時点で大麦 13.0%以下、小麦 12.5%以下に調製し、高品質生産に努める。